

ジェンダーから見える家庭内教育

ベッカーズ 絢嘉（オランダ）

<男の子がブルーで女の子がピンク。>これはオランダにおける色に対しての固定概念です。オランダで生活しているとジェンダーの差を感じさせない考え方をするオランダ人が多いため、この固定概念に興味を持った私は、社会に存在する職業に対して固定概念があるかどうかを調べてみようと思いました。具体的には小学校のグループ8（日本では小学校6年生、以下小学6年生）の生徒、及び無作為に選んだ保護者に対してアンケートを作成し、職種によって男性、女性どちらの職業というイメージを持つか、また学歴、キャリアの機会均等について聞いてみました。今回はその結果をご紹介します。

まず小学6年生に家庭内での男性、女性の役割を聞いたところ自分の両親がどのような家事を行っているかを書き記してくれました。それを見ると、父親も母親もほとんど同じ家事内容を協力してしているようです。時間が空いている方が料理や掃除をしており、どちらかだけが家事をするのではない様子が伺えました。ただほとんどの家庭において父親が主に行っていること、それは庭の手入れと修理関係。これ以外はすべての家事を両親共々日を変えて行っていることに驚きました。この結果は保護者のアンケート内容にも見られる結果で、母親が働く日は父親が料理、掃除をしたりと協力し合っているようです。ただ一方がパートタイムで働き、もう一方がフルタイムで働いている場合はやはりパートタイムで働いている親がより多くの家事を行っています。しかしこの結果も前述したとおり時間が空いている方が家事をするの仕組みに当てはまっています。またすべての保護者に共通する考え方として<家庭内で男の仕事、女の仕事というものはない。家庭によって生活環境が違うため一概には言えないが、大事なのはお互いの中に合意があって支え合い、機能していくこと。>ということです。

次に社会における職種におけるイメージ調査の結果をご紹介します。職種といっても数え切れないほど多くの職種が存在するため、注目すべき点、興味深い点をご紹介します。小学生、保護者の両者が比較的大きな割合で男性の仕事であると答えた職業として<運送業、消防士、パイロット、軍隊、建設業、修理工>でした。特に建設業では小学校6年生の男女共に100%、保護者の男性100%、女性75%が男性の仕事であると回答しました。運送業、修理工に関しては保護者の男性100%、女性75%がそのように回答しており、小学校6年生においても全体の約90%がそのように回答しています。逆に両者が主に女性の仕事と考える職種として<美容関係、保育士>があります。ここで興味深いのは両者とも小学校以上の教員に対しては<男女両方に適応する職種>という回答が圧倒的に多いのに対し、小学生以下の保育士となると女性の仕事というイメージを持っていることです。次に両者が男女共通の職種であるイメージを持つ職種として<政治家>が挙げられます。これは、オランダの政治家を見てみると日本よりも多くの女性が大臣またはそれに比較する地位についていることから理解できます。

次に小学6年生と保護者の職種に対するイメージが異なる場合をご紹介します。まず清掃業は小学校6年生は男女共に85%以上が女性の仕事としているのに対し、保護者は男性

75%、女性 50%が男女の仕事と回答しています。また前述したとおり、<家事>はオランダの家庭内では男女が同じ内容を協力して行っているという現状に関わらず、小学校 6 年生は男子 87%、女子 64%が女性の仕事、保護者に関しては男女共に 50%が男女の仕事としています。これは、多くの家庭で父親がフルタイムで働き、母親がパートタイムで働く場合が多いため、必然的に時間の空いている母親が家事をしているというイメージを子供達に与えているということを反映しているのではないかと思われます。最後に<コンピューター関連>の職種を見てみると、小学生の男子 100%、女子 64%が男性の仕事と回答したのに対し、保護者に関しては男性 75%、女性 50%が男女共通の仕事と回答しています。<清掃業>と<コンピューター関連>のイメージの違いについては、まだ社会に出たことのない子供達の純粋なイメージと、すでに社会の中で働き、様々な職業の人々を見ている保護者が知っているリアティーの違いを表している結果だと思えます。もう一つ興味深い点、それは看護師に対しての両者の回答に関してです。小学 6 年生の看護師に対しての回答は男子 100%、女子 94%が男女両方に対しての職種と回答しており、それは在宅看護、老人介護においても同様です。一方で保護者の回答は病院での看護師は男性 75%、女性 50%が男女共通の職種だったのに対し、在宅看護、老人介護においては男女とも 75%が女性の仕事という回答結果が得られました。この違いは、在宅看護、老人介護は主に家事的な仕事内容な多いため、<家事>→<女性>というイメージがやはり強いのか、あるいは男性はより自分が専門とする知識を生かした職業を求めている結果なのかなと思えました。

アンケート結果を総合的に見てみると、体力を必要とする仕事、技術関係の仕事が男性の仕事、人の世話をする仕事、美容関係が女性の仕事というイメージを持った人が多いということが分かります。

また学歴とキャリアにおける機会均等について、小学 6 年生と保護者全員が<当然同等である>と回答し、<男性が主夫になることに対して抵抗はないか>という問いについて保護者全員が抵抗なしと答え、小学 6 年生は 96%が<抵抗なし>、4%が<抵抗あり>という結果でした。日本でもイクメンが増えてきているとはいえ、まだまだ<主夫>に対する考え方は日蘭間で大きな差があると思えます。

このアンケート調査から私が思うことは<家庭の延長線が社会であり、社会を良い方向に変えるのは家庭内教育である。>ということです。特に小学生の回答結果を見てみると自分の両親が家庭の中でどのように過ごしているかということが社会の職種に対するイメージに強く影響しているように思われます。ということは子供の社会に対するイメージは両親によって決まるといえます。社会に存在する職種に対するイメージがどのようなものであれ、自分の考えと反する例外的なことを目にした場合にそれを受け入れ、理解していく姿勢こそが社会をより良いものにします。どちらも改めて言われれば当然のことであるにもかかわらず、日頃私達はこのことに無意識に過ごしているように思うことも多々あります。言葉を変えて言うなら、ジェンダーのことを考えることが昨今忘れ気味となってる家庭内教育の重要性を示すことにつながっていると考えます。その家庭内教育こそ私達の未来を築く根幹です。その意味においてこのアンケート調査はとても有意義なものであったと信じています。



様々な文化を持ったオランダが凝縮したような小学校。この子供達の未来がどうなるのか楽しみです。